

第9号 (2012年度 後期)

# 養寿寺だより

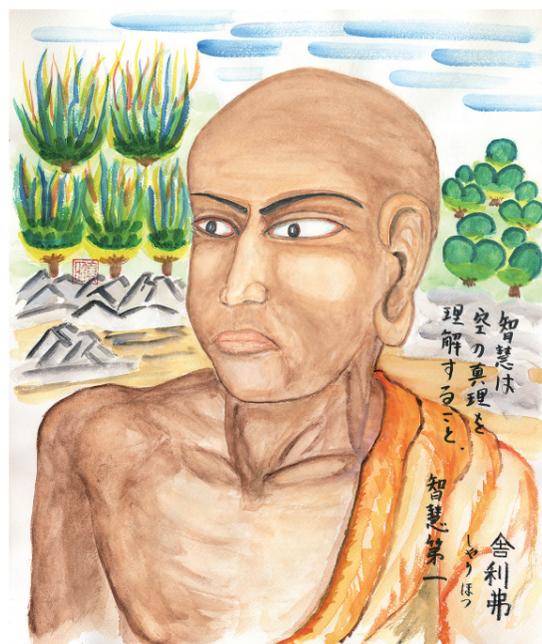
発行日 平成25年1月1日  
 編集・発行 真宗大谷派 養寿寺  
 〒473-0924 豊田市花園町屋敷56  
 TEL&FAX (0565)52-4470  
 E-mail n-makino@hm.aitai.ne.jp  
 ホームページアドレス  
<http://www.hm.aitai.ne.jp/~n-makino/>

## 「頭をさげる」と「頭がさがる」

私の知人がこんな話を教えてくれました。

【豊田市内のある牧場でのことです。その牧場は主に乳牛を扱っています。そこに農業高校の生徒が実習に毎年やってきます。牛にエサを与え、牛舎を清掃すること。牛のお乳を搾ること。短期間ではありますが様々なことを学んでいきます。ところで、お乳を出すのはメス牛にしかできません。オスの牛は、原則三年ほどで肉にされてしまいます。去勢もされます。オス牛は、食肉工場行きのトラックに乗せられる時、自分が食肉にされるのをうすうす感じ取るのか、足を突っ張って乗せられるのを拒むそうです。牛が食肉の肉になるのを実際に見学するのも大切な研修なのでしょう。お肉を新鮮でおいしい状態に保つために、牛の頸動脈を切り、血抜きのようなこともします。複雑な思いで牧場の牛が牛肉となるその過程を彼らは学びます。さて、研修期間の終わりに近づいたある昼食の時、牧場で育った牛の肉を使っている『牛丼』が実習生に出されました。その牛丼を前にして、実習生たちは今までの昼食時の態度とは異なり、手を合わせ深々と頭を下げていました。中には、合わせた手が震えている生徒もいたそうです。「食前の挨拶をしてください」と誰も言ったわけではないのに。」

少し前、「いただきます」を食前に言うべきかということがちょっとした論争になったことがあります。あるラジオ番組で紹介された一通の投書がこの発端であったと記憶しています。



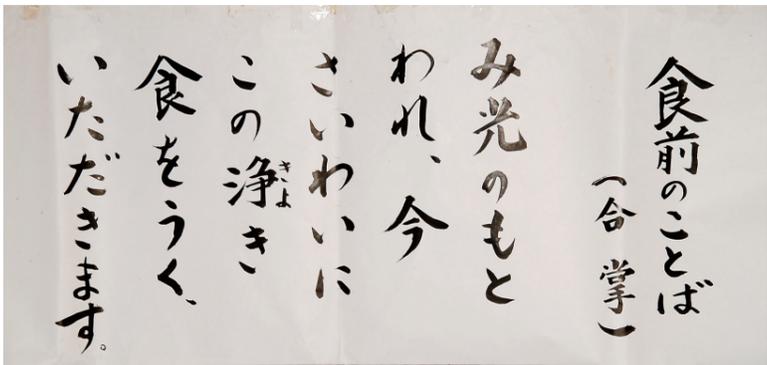
〔花園在住 樹神昭二さん作〕

その投書とは、「ある小学校に、一人の母親が次のような申し入れをしたそうです。『給食の時間に、うちの子には、いただきます』と言わせないでほしい。給食費をきちんと払っているんだから」と。みなさんはどう思われますか』といった内容のものでした。反応の多くは、食前の挨拶を省くのは日本の良き伝統を軽視することだと批判するものだったそうです。そもそも、『いただきます』の語源は、自分のいのちを支えるために他の生き物の尊いいのちをいただく、そのことに感謝するという仏教的なもののような語源からすると給食費と食前の挨拶との関連性はあまりありません。私も、しつけの一つとして小さい頃から『いただきます』を食前に言うように教えられてきました。そして、頭の中では「食事とは尊いいのちをいただく」と理解しています。しかし、恥ずかしながら、この年になっても単なるかけ声と知識としてしか自分のものになっていません。「いただきます」と口では言うものの、嫌いなものは平気で残すし、食欲が満たされれば調理されたものを躊躇せずに捨ててしまうこともあります。一方、冒頭で紹介した農業高校

実習生の牛丼を前にした不思議な光景は、「いのちの尊さ」を単なる知識としてではなく、体験を通じて自分の身体で理解したことの証ではないでしょうか。理解しているかという問いは『はい・いいえ』の二つに一つとして分けられがちです。けれども本当は、理解しているというものの中に程度の差がずいぶんあるはず。特に、生きていく上で大切なことや尊い教えに関しては、頭ではわかっていても、そのことが常に思考や行動の基礎として位置しているわけではないように思われます。例えば、「生きていくことの有り難さ」です。どのように理解されているかは別として、誰もが頭の中にこの考えを持っているのは確かです。しかしながら、はたしてどれほどの方が、日々の暮らしの中で、生きていくことに有り難さを感じておられるでしょうか。時には、自分や自分の人生にダメ出しをしてしまうことすらあります。苦しいことに直面すればそんな思いになることも不思議ではありません。「生きることの有り難さ」を教えとして説く僧侶の身でありながら、私もその教えのように生きることを味わうことができていません。だからといって、「生きることに有り難さ」という教えが軽視されるべきものではありません。今は生きるこの部分で費用で評価されている世の中です。万が一、生きるこの有り難さが忘れられてしまうと、経済的合理性というモノサシによって取りかえしのつかないほど寒々しい世の中になってしまいかもしれません。

今まで理解していたことが、何かの出来事や体験を通じて、本当にわかったと思えるようになったことがあるのではないのでしょうか。今まで漠然ととらえていたことが、はっきり見えてきた経験もあるのではないのでしょうか。おそらく知識として持っている大切なことが真理として自分の身に備わることがあるのか、迷いや苦難も含めて相当時間がかかるものなのでしょう。少なくとも、このような教えをくだらないものと捨ててしまつのは間違いです。多くの人々と長い歴史を経て伝えられてきた仏法も、迷いや苦難を含め私たちの長い歩みの中で少しずつ輝きを増してくるものだと私は確信しています。食前の場で農業高校生が示してくれたあの尊い行動は、形式的に頭をさげているた仏法に対しても、きつといつか自ずと頭がさがる時が来ることを暗に示しているのではないのでしょうか。

(養寿寺住職)



〔養寿寺前住職 牧野文雄 書〕

### アジアの仏教国を訪ねて(3)

横尾 明親

(略歴)  
真宗大谷派教師。  
現在は龍谷大学大学院で仏教を研究するが、たわら仏教国を訪れている。



#### 「托鉢と布施の仏教 ラオス」

東南アジアの内陸国ラオスは、今年の夏に皇太子様が訪問されたことで、大河メコンの豊かな水と親的な様子が、多くの方に知られるようになりました。

東はヴェトナム、北は中国雲南省、南はカンボジア、西はタイ・ミャンマーに囲まれた、本州くらいの面積で人口五八〇万人の小さな国です。山地や高原などに五〇もの少数民族が暮らしています。

十四世紀頃から上座仏教を信仰するラーンサーン王国が建てられ、王朝が交代したものの、現在でも人口の七割くらいが仏教徒です。

一九五三年にフランス植民地から独立したのですが、米国のヴェトナム戦争介入によって、ラオスも戦禍に巻き込まれ、政治も不安定な状況が続きました。現在は、王政から社会主義体制になっており、中国の影響が大きくなっています。そのために、宗教活動にも国家統制が強くなり、仏教僧団へも托鉢地域の規制や宗派の



〔古都の寺院の仏殿〕



〔ラオスの寺院の仏像〕



〔多くの在家者が僧に布施する〕



〔外務省HPより ラオス〕

解体などがなされました。

しかし、現在でも五千の寺院と三万人の出家者(比丘・沙弥)が存在し、仏教徒の日常生活には、布施と功德廻向の仏教が根付いています。多くの寺がある古都ルアンパバンの早朝の街角では、托鉢する僧侶への人々の布施の姿も見られ、観光客も混じって食事を布施する姿が毎日見られます。

仏教の伝統も続いており、大人となるための一時出家も盛んで、在家者は、寺院や僧への喜捨によって功德(フン)を積み、現世での繁栄と来世での善い再生を期待する信仰が生きています。

その一方で、タイやスリランカと同じような上座仏教であっても、ラオスの人々には古くからの魂(クワン)の観念も残っており、仏教が精霊信仰とも習合することもあります。

特に、誕生や結婚、送別と歓迎、新築や病氣回復などを目的としたパーシーという儀礼が日常的に行われます。人間には多くの精霊が宿り、身体から出ないように、そして出たクワンを呼び戻すものです。祈りと白い糸を手巻く儀礼で、日本の皇太子様も、最後の訪問地で、この儀礼を受け白い糸を手巻いた様子が報道されました。

また、メコン河流域の高い岸壁には、古くからの洞窟仏教寺院があり、多くの素朴な仏像に花や香が手向けられ、船で毎日お参りにくるラオスの人々の信仰の様子がわかりました。最近では、教団への統制が強化され、教育・医療・福祉へ僧侶が積極的に関わることが求められるようになっていきます。

### わが町のヒーロー(3)

#### 町の平和と安全を私たちが守ります



〔防犯隊長 鈴木一郎さん〕

若園地区防犯隊の方々が私たちの町の安全を守ってくださっているのをご存知ですか。一年三百六十五日、毎日欠かさず「青パト」や「徒歩パトロール」で町を巡回し、安

全を呼びかけたりされています。

平成十六年からスタートし、今では、登録されている隊員の数は、若園自治区で約五百名にのぼるのだそうです。もちろん、防犯隊に所属されているみなさん全員、ごく普通の地域住民の方々に、六十五才以上の人が割合としては圧倒的に多いようです。地域住民が協力することの犯罪抑止効果は絶大です。防犯隊発足以前の若園地区の年間犯罪発生件数二〇〇以上あったものが、隊員の方々のご努力によって減少を続け平成二十三年には三十三件に激減してきました。驚異的な実績です。物騒な時代になったと

社会を冷ややかに見る傾向はあります。しかし、花園町を見る限り、状況は違うようです。隊長の鈴木さんは、「住み良い町づくりに自らが積極的に関わることは一つの喜びです。花園町の犯罪発生件数がゼロになり、それがずっと続いていくことが私たちの目標です」と力強く語っておられました。安心して住むことのできるステキな町づくり。実は、名も無きヒーローたちの活動によって支えられていたんですね。



〔徒歩パトロールのみなさん〕

ね。

### 平成二十五年 年忌 早見表

一周忌	平成二十四年(逝去)
三回忌	平成二十三年
七回忌	平成十九年
十三回忌	平成十三年
十七回忌	平成九年
二十二回忌	平成三年
二十七回忌	昭和六十二年
三十三回忌	昭和五十六年
三十七回忌	昭和五十二年
四十三回忌	昭和四十六年
四十七回忌	昭和四十二年
五十回忌	昭和三十九年

年忌法要のことはもとより、ご自宅のお内仏(仏壇)のごこと、お布施のごことなどご相談いただくことも仏教に触れていただくことに通じると思います。遠慮無くご相談ください。

### 京都東本願寺 本山納骨について



上の写真、小さい方は骨用の骨壺です。家のお墓とは別の所にお骨を納める時のために分骨があります。もしも、亡くなられた方のお骨を本山東本願寺の須彌壇に納めることをご希望される場合は、

養寿寺にご連絡ください。納骨を機に、本山にお参りされるのもよいかと思えます。また、真宗大谷派教団を支えていただくことにもなります。御志納額は、十二万円以上となっております。山の納骨は何年先でもかまいません。もちろん家のお墓に納めても構いませんし、大谷祖廟や三河別院、養寿寺納骨堂もあります。電話番号は(0506)552-4470(養寿寺)

本年度 御依頼割当のご報告

本年度 本山からの御依頼額 九十八万六千七百円 (同朋会員志四万二千五百円含む)

みなさまのおかげをもちまして、早期に、しかも、御依頼額を遥かに上回る額(約一五〇%)を納めることができました。心より御礼申しあげます。

なお、この本山御依頼割当(経常費)につきましては、本山収骨・院号申請に対する御懇志を充てさせていただきます。

(一) 本山須彌壇収骨

- 花見務様 日下克俊様
楠宜久様 樹神清治様
寺田三樹夫様 寺田光子様
小山佳紀様 小山節子様
川嶋義春様

(二) 院号申請

- 日下克俊様 楠宜久様
小山佳紀様 川嶋義春様

(三) 同朋会員志

花園仏教世話方会計様より

養寿寺施設や備品の 充実についてのご報告

- (一) 養寿寺座敷の新築工事 千八百二十五万二千元 (建築工事・設計管理等)
(二) 養寿寺本堂植修理 十万五千元



[十畳間]



[廊下]



[小原和紙 ふすま絵]



[六畳間]

なお、今回の座敷の新築工事も含め施設充実のための費用については主に養寿寺に御志納いただいた祠堂金より支払っております。本年度は、

- 野村幸司様 楠宜久様
養寿寺住職 牧野直人

右記の方より祠堂金を御志納いただきました。心より御礼申しあげます。

本年度七月から十二月までの 主な行事ご報告

一・法話会

九月六日に花園仏教会世話方主催の秋の法話会が養寿寺庫裏で行われました。参加者は約六十名。講師は、堀田護先生でした。十月二日には、養寿寺同朋会主催・花園仏教世話方協賛の秋の法話会を執り行いました。参加者は約五十名。講師は、伊奈祐諦先生でした。

た。また、来年度の同朋会役員の方もご参加いただき、新旧合同でお斎(昼食)の準備をしていただきました。



[伊奈祐諦先生]



[新旧の同朋会役員]

二・暁天講座

八月の七日〜九日の三日間、暁天講座を執り行いました。一日目が榎野明人先生。二日目が弁護士土面尋志先生。三日目が同朋大学の安藤弥先生でした。百名以上の方がご登録され、三日間とも九十名以上の参加をいただきました。暁天講座は、大谷派僧侶にこだわらずいろんな分野でご活躍の先生にお話いただくことを考えております。



[法話を拝聴するみなさん]



[朝5時45分からの出勤]

三・永代祠堂法要

九月二十二日(土) 養寿寺永代祠堂法要を厳修しました。この仏事は、仏の教えが永代まで伝わることを願う寺院護持にご支援いただいた方への感謝の法要であり、参詣される方々にとっては、大切な方が亡くなられたのを機縁として祠堂金を納めていただきますので、亡き人の追悼法要の意味合いがあります。本年度も該当の方には連絡を申しあげましたところ、八十名ほどの方々にお参りいただきました。法要の

後、法話の部では、中日文化センター講師の浅井勉先生に「南無阿弥陀仏」というテーマでお話いただきました。お斎(昼食)は、特製の精進料理をお出ししております。



[浅井勉先生 ご法話の様子]



[栗ごはんが好評でした]

四・報恩講

十月二十六日〜二十八日の三日間、養寿寺報恩講を厳修しました。今年も、法要の形式は概ね同じで、スクリーンに正信偈を映し、お読みいただきました。また、法話については初日は養寿寺住職、二日目は藤本愛吉先生。最終日は和田真雄先生でした。本年度は、永田や仏壇店さんに出張販売を行っていただきました。



[みんなで正信偈]



[本堂前の様子]



[藤本愛吉先生の法話の様子]



[音楽法要 大正琴グループ]

本年度報恩講に御志納いただいた方は百九十三名。御志納いただいた金額の合計は、五十二万四千円でした。ご参詣、御志納ありがとうございました。内容の充実を図りながら、さらに多くの方にご参詣いただくよう努めてまいります。

養寿寺ホームページで、報恩講三日間のダイジェストを五分間の映像でご覧いただけるようにしております。ぜひ、ご覧ください。



〔親鸞聖人御絵傳 解説〕



〔報恩講 お斎の様子〕

**五・高岡組門徒会主催 本山報恩講団体参拝**

十一月二十八日・二十九日、京都本山東本願寺報恩講参拝および研修旅行（一泊二日）に養寿寺から九名の方にご参加いただきました。二十八日は宗祖親鸞聖人の命日報恩講最終日でもあり本堂は参詣者でいっぱいでした。親鸞聖人の師でもある法然上人の知恩院をはじめ研修地は親鸞聖人ゆかりの場所を訪れました。宿泊地は、びわ湖温泉緑水亭で、日頃の疲れを温泉で癒していただきました。来年度も、本山参拝（二日）を予定しております。



〔団参 本山前で記念撮影〕



〔研修場所 善立寺でのお話〕

**六・お寺でラジオ体操 お経のお稽古**

本年度も八月二十一日～二十五日の四日間、朝の六時半から『お寺でラジオ体操とお経のお稽古』を実施いたしました。花園子供会や花園郵便局のご協力により、四十名以上の方にご参加いただきました。



〔ラジオ体操の様子〕



〔正信偈の練習の様子〕

正信偈を読むお稽古をしましたが、改めて子どもの習得能力の見事さに驚きました。

**七・戦没者追悼法要**

十二月十二日に花園町戦没者遺族会主催『花園町戦没者追悼法要』を厳修いたしました。養寿寺本堂南側に先の大戦で国のために亡くなられた方のお写真が掛けられています。戦後六十八年が経過しました。この間、あの悲劇は繰り返されておりませんが、非戦の誓いと平和への願いを込めた特別な法要と位置づけ、お寺としてもこの法要を大切にしています。



〔本堂南の戦没者のお写真〕



〔本堂南余間の法名軸〕

**花園町 地蔵盆**



〔ふれあいクラブ主宰 地蔵盆〕

毎年、八月二十五日前後に、花園町の四力所で地蔵盆が執り行われます。町の安全を願う道祖神信仰と仏教が融合したものだとして

います。確かに、道が交わる一角や町の入口といったような場所にお地蔵さんは立っておられます。町の安全は地域の連携を深めることが大切だと言われています。地蔵盆を機縁とし、地域の人がお互い顔を合わせ、話をするのであれば町の安全に役立つことになるのではないのでしょうか。

**仏事にまつわるエトセトラ③**

【質問】焼香の仕方がよくわかりません。

【回答】お困りの方は多いのではないのでしょうか。この理由は、おそらく焼香の所作が仏教各宗派によって異なるからでしょう。

そもそも線香であれ、抹香であれ、香の芳しい香りで仏さまの世界を想うことと身近に感じることにつながるものであり、仏事において必要不可欠なものです。特に、焼香の所作そのものが、仏教を身体で表しました味わう大切な行為であると私は考えます。私たち真宗大谷派の所作が一番良いとは言いませんが、左の図をご覧ください。また、線香は立てずに香炉に収まるよう線香を折って、寝かせます。



①ご本尊を仰ぎ見て軽く頭を下げる

焼香のとき、香は頂かない

②香をつまんで香炉へ（焼香は2回）

③念仏を称え、合掌礼拝

〔焼香の仕方の図 東本願寺真宗会館HPより〕  
立ったまま焼香される時も所作は同じです。

**〔平成25年6月までの主な予定ご案内〕**

- 12月31日(月) 除夜の鐘 午後11時45分から
- 1月1日(火) 修正会 午前0時から  
正信偈を読みます。
- 1月4日(金) 養寿寺主催 書き初め会 午前中
- 3月23日(土) 蓮如忌第1日 午後 勤行と法話  
法話担当 養寿寺住職
- 24日(日) 蓮如忌第2日 午前 勤行と落語  
お斎(とき) 午後 音楽法要と落語  
落語 笑福亭仁智 師匠 とお弟子さん一人
- 4月8日(月) 花まつり(甘茶・抹茶をお出ししております)
- 5月9日(木) 花園仏教世話方会主催 春の法話会  
講師 西尾市安楽寺住職 伊奈祐諦先生
- 6月18日(火) 養寿寺同朋会主催 初夏の法話会  
お斎あり  
講師 岡崎市本宗寺住職 堀田 護先生

- 《基礎からの仏教講座》 場所：養寿寺庫裡  
日時：毎月最終日曜日 夕方6：55～7：50 参加無料  
1月27日(日) / 2月24日(日) / 4月28日(日) /  
5月26日(日) / 6月30日(日) / 7月28日(日)
- 《花園コーラスの練習日》 2月6日(水) / 2月20日(水) /  
3月6日(水) / 3月21日(木) 午後1：00～3：00



蓮如忌 1



蓮如忌 2



花まつり



法話会



基礎からの仏教講座